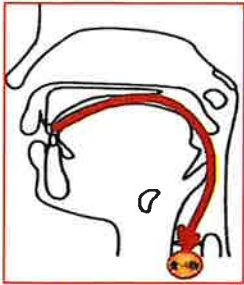


かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

「かかりつけ医」として在宅療養をサポート致します。



【窒息とは】

【知っておきたい/予防したい、誤嚥性肺炎②】

★駒形悠佳歯科医師 障害者歯科学会認定医 摂食嚥下リハビリテーション学会認定士(法人顧問)

○窒息とは？

▽ここでは、食物の窒息についてお話しします。食物が気管に入り(誤嚥)気道に詰まって呼吸困難となった結果、全身に酸素供給が十分に行われない状態を「窒息」といいます。65歳以上の高齢者と乳幼児に多く、死亡者数は年間約8,500人以上で、うち80歳以上は2,500人以上と報告されています。(厚生労働省:人口動態調査より)

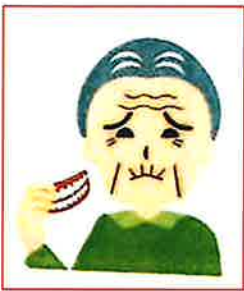
【なぜ高齢者に誤嚥性肺炎と窒息が多いのか】

①噛む力の低下、舌の筋力・機能の低下

口の周りには食材を効率的に噛むために重要な筋肉が複数存在します。加齢により、「噛む力」「舌の動き」「舌の力」「唇・頬・舌の複雑な動き」が低下することが報告されています。

②歯の減少、補綴物(ほてつぶつ=入れ歯)の適合不良

歯の減少は、噛む能力に大きく影響します。奥歯の欠損は、食材を上手に噛み砕くのが難しくなり、前歯の欠損は、大きな食材をかじり取ることが難しくなります。義歯の適合不良、歯周病でグラグラしている、歯の痛みがある場合も、効率的な咀嚼運動は難しいです。[次回③に続く]



【補綴物】



～編集後記～スタッフのつぎやき～

☆2025年4月から、普通の風邪が「5類感染症」になる?!こんなニュースが飛び込んできました。調べてみたところ、簡単にいいますと、急性呼吸器感染症の症状(いわゆる風邪症状=上気道炎、下気道炎)がある患者も、手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス、マイコプラズマ肺炎などといった風邪の仲間と同じように、医師に患者数を報告してもらい、未知のウイルスや病原菌の早期発見に務めるためだそうです。さて、2024年もあとわずかです。今年も本当にありがとうございました。来年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。(K)

医療法人財団ファミーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町1-41-1 桜井ビル2階

① ☆外来：心療内科=永井斐子院長

もの忘れ=新井田素子医師

内科=駒形清則医師

② ☆訪問診療

内科=駒形清則医師、駒形明紀医師

精神科=米谷充医師

神経内科=今井壽正医師、西岡健弥医師、平井健医師

※詳しくはホームページをご覧くださいか、お電話にてお問い合わせ下さい。

電話 03-3627-0233